

## 教会の使命

マタイの福音書 28章 16-20節

### はじめに

先週の寿夫牧師の説教では、教会をどのように建て上げていくのかということが語られました。それは、第一に、教会はキリストによって建て上げられる、第二に、教会はひとりひとりが与えられている賜物を用いることによって建て上げられる、第三に、教会は一致することによって建て上げられる、第四に、愛のうちに建て上げられるということでした。

では、建て上げられた教会は、世界に対して、また教会の外に対して、どのような使命を与えられているのでしょうか。

### 1. 大宣教命令とは、どんな命令か？

今日の聖書箇所 19-20節には、イエス様が十字架に架かり復活した後、弟子たちに語られた命令が書かれています。これは、「大宣教命令」と呼ばれ、キリスト教会はこの命令によって地上に建て上げられました。イエス様は、この大宣教命令を弟子たちに与えて、天に昇って行かれたのです。

では、大宣教命令とは、どんな命令でしょうか。19-20節にはこうあります。「**それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授け、また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい**」。

大宣教命令の中には、四つの命令が書かれています。一つは「行きなさい」ということ、二つ目は、「あらゆる国の人々を弟子としなさい」ということ、三つ目は「父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授けなさい」ということ、四つ目は「イエス様が命じておいたすべてのことをまもるように教えなさい」ということです。

しかし、これらの四つの命令のうち、最も中心的な「あらゆる国の人々を弟子としなさい」という命令です。大宣教命令は、一言で言えば、「あらゆる国の人々を弟子とする」という命令なのです。

では、具体的にどのように「あらゆる国の人々を弟子とする」のでしょうか。それは、第一に、あらゆる国の人々の所に「行くこと」です。教会は、教会の外にいる人々のもとに出て行かなければなりません。第二に、あらゆる国の人々に「父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授けること」です。教会は、人々を悔い改めと信仰に導き、洗礼を授けなければなりません。第三に、あらゆる国の人々に「イエス様が命じておいたすべてのことを守るよ

うに教えること」です。教会は、聖書を通して信徒を教育しなければなりません。

このように、「行くこと」「洗礼を受けること」「教えること」を通して、人々をイエス様の弟子としていくこと、言い換えれば、伝道、教会への加入、教育を通して、人々をイエス様の弟子としていくこと、これが大宣教命令であり、イエス様が教会に与えた使命なのです。

では、イエス様の弟子とは、どんな人のことを言うのでしょうか。それは、第一に「父、子、聖霊の御名によってバプテスマを受けられた人」です。三位一体の神様の名前によって、洗礼を受けた人のことです。洗礼を受けた人は、誰でもイエス様の弟子です。

洗礼とは、三位一体の神様との交わりに入れられることを意味します。その意味では、イエス様の弟子とは、神様との交わりに生きている人のことを言います。

第二に、イエス様の弟子とは、「イエス様が命じておいたすべてのことを守る人」です。それは、聖書を読み、聖書の御言葉を実行する人と言えます。

神様との交わりは、具体的には聖書の御言葉を通して、神様に語りかけられることを通して行ないます。その意味では、イエス様の弟子とは、聖書の御言葉を通して、神様との交わりに生きている人のことを言うのです。毎日、家で聖書の御言葉を読み、毎週、礼拝で聖書の御言葉を聞く、そのようにして日々神様との交わりに生きている人をイエス様の弟子と言うのです。

## 2. 大宣教命令は、どんな方から与えられた命令か？

では、この大宣教命令は、どんな方から与えられた命令なのでしょうか。18節には、こうあります。「わたしには天においても、地においても、いっさいの権威が与えられています」。

大宣教命令は、天においても、地においても、いっさいの権威が与えられた方からの命令です。イエス様は、十字架に架かり復活した後、父なる神様から「いっさいの権威を与えられた」のです。

イエス様は、教会にだけ権威があるわけではありません。そうではなく、教会の外の社会の全領域に権威のある方です。聖書には、「**神によらない権威はなく、存在している権威はすべて、神によって立てられたものです**」(ローマ13:1)とあります。世界や社会にあるすべての権威は、神様のものです。神様はその権威を、イエス様に与えられたのです。イエス様は、世界や社会のすべての権威の上に立つ方です。そのイエス様からの命令が、大宣教命令なのです。

その意味では、大宣教命令は、イエス様が与えられているすべての権威のもとにある人々をイエス様の弟子としていくという命令です。それはつまり、世界や社会のあらゆる領域の人々をイエス様の弟子としていくという命令です。政治関係の人々、経済関係の人々、芸術関係の人々、スポーツ関係の人々、福祉関係の人々、教育関係の人々、その他、高齢者、障害者、主婦、子ども、イエス様の権威のもとにあるあらゆる領域の人々をイエス様の弟子としていき、世界や社会のあらゆる領域の中で、イエス様の御名があがめられ、イエス様の御

心が行なわれ、イエス様の御国がもたらされていくことが、大宣教命令なのです。

### **3. 大宣教命令は、どんな人に与えられた命令か？**

では、この大宣教命令は、最初どんな人たちに与えられた命令なのでしょうか。16節を見ると、それは、イエス様の「**11人の弟子たち**」であることが分かります。では、この11人の弟子たちとは、どんな人たちだったのでしょうか。17節を見ると、「**彼らは礼拝した。しかし、ある者は疑った**」とあります。

イエス様の11人の弟子たちは、復活したイエス様と会った時、ある弟子は礼拝したけれども、ある弟子は疑ったのです。つまり11人全員が、イエス様の復活を信じ礼拝したわけではないのです。中にはイエス様の復活を疑う弟子もいたのです。

イエス様の大宣教命令は、決して完璧な弟子たちに与えたものではありません。信仰に不安を抱える弟子たちもいたのです。不信仰な弟子たちもいたのです。信じたいけれども信じられない、そういう弟子たちもいたのです。しかしイエス様は、そういう弟子たちに、人々を救い、教会を建て上げる、大切な大宣教命令を委ねられたのです。それは、とても頼りない不安定な人たちです。しかしイエス様は、御自身の大切な命令を、この頼りない不安定な人たちに委ね、天に昇って行かれたのです。

イエス様は、完璧な教会に大宣教命令を委ねるわけではありません。迷うこともあり、疑うこともあり、不安定になることもあり、一致が乱れることもある、そういう弱さを抱えた教会にこそ、御自身の大切な命令を委ねられるのです。そしてそのような弱さを抱えた教会を通して、世界や社会のあらゆる領域の人々を、イエス様の弟子としようとされたのです。

### **4. 大宣教命令の約束は何か？**

では、そんな頼りのない不安定で、弱さを抱えた教会が、どうしてイエス様の大切な命令を実行していくことができるのでしょうか。世界や社会のあらゆる領域の人々を、イエス様の弟子とするなんて、そんな壮大な命令を、弱さを抱えた教会の力だけで実行できるはずがありません。

20節でイエス様はこう言われます。「**見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます**」。イエス様が教会といつも共にいてくださるから、教会は大宣教命令を実行していくことができるのです。イエス様は、弱さを抱えた教会に、無理難題な命令を委ねて、何の助けも与えずに天に昇って行かれたものではありません。イエス様は、大宣教命令を私たちと共に担ってくださるのです。イエス様は、私たちと一緒に大宣教命令を実行してくださるのです。それは、イエス様の霊である聖霊を通して、とも言えます。聖霊は、いつも私たちの教会と共にいて、私たちを助け、私たちの伝道を、私たちの成長を導いてくださいます。教会が良い時も悪い時も、いつも共にいて、私たちを助け、大宣教命令を実行できるように

助けてくださるのです。

### **おわりに**

教会の使命は、世界や社会のあらゆる領域の人々を、イエス様の弟子とすることです。そして世界や社会のあらゆる領域の中で、イエス様の御名があがめられ、イエス様の御心が行なわれ、イエス様の御国がもたらされていくことが、教会のヴィジョンです。

そのために私たちは、教会の外に目を向け、出て行って伝道しなければなりません。人々を悔い改めと信仰へと導き、洗礼を授け、教会に加えなければなりません。そして、人々が聖書の御言葉を通して、神様との交わりに生きるように教育しなければなりません。

私たちは小さな群れで力もありません。しかし、イエス様がいつも私たちの教会と共にいてくださって、イエス様が力を与え、いつも助けてくださいます。

教会だけでなく、私たちクリスチャンひとりひとりがこの大宣教命令を委ねられています。家庭の中で、職場の中で、学校の中で、あらゆる人間関係の中で、イエス様を証しし、イエス様の弟子とされる人が起こされるように祈り求めていきましょう。